



第 30 期日本ロシア学生交流会 関東本部
報告書

第 30 期日本ロシア学生交流会 関東本部
報告書

序

日本ロシア学生交流会は、「日ソ学生交流会」としての発足から約三十年間、時とともに形を変えながら活動してきました。情勢の激動の中、私たちが中心軸として捉えているのは、如何にロシアの現状を知るか、如何にロシアの魅力を日本人に伝えるか、という二つの課題への挑戦です。

生のロシアを知ること。それは、ロシアとの交流を行う上で必要不可欠な課題です。弊団体では、この課題に対しホームステイというアプローチを取ってきました。ロシア人を日本に受け入れる訪日企画、日本人がロシアに赴く訪露企画を毎夏行うことで、ノヴォシビルスクおよびリャザンの両提携都市との友好関係は年々深まりつつあります。

また、一般の日本人の方にロシアを知ってもらうことも、弊交流会に課せられた重要な使命だと認識しております。私たちはこれまでに、大学祭への企画参加、他団体と協力してのセミナー開催などの様々な形での試みを重ねてきました。こういった地道な活動こそが、ひいては日露間の友好関係に繋がっていくものであると信じ、今後も努力を重ねてまいります。

この一年間、私どもは「多様性」を合言葉に会運営を行ってきました。ロシアを「北の恐ろしい国」とレッテル貼りするのは簡単です。しかし、そこには何十もの民族や言語が犇めき、日本の人口より多い人々が暮らしています。ロシアを様々な角度から捉え、咀嚼し、発信するためには、日本にいる私たちも多様性への意識を高める必要があると考えております。

ロシアでは近年、日本に興味を持つ若者の数が激増しており、それに伴って社会全体の日本への好感度が上昇しつつあります。一方、日本では依然ロシアに対する意識は薄く、情報不足に起因する過剰な恐怖が先行するケースが多く見受けられます。しかし、ロシアを隣国の一つとして捉える多様化、ロシアの持つ多様性からの学びなど、日本に住む私たちがロシアに注目するメリットは計り知れません。私たちの活動は、ロシアとの交流の深化のみならず、私たち自身の社会生活にも利益を齎すものであると確信しております。

私たち日本ロシア学生交流会の活動はどれも、それぞれの企画を支えてくださる会員の皆さま、ご理解とご協力をいただいている助成財団の皆さまのお力なしには成しえないものです。末筆ながら、弊団体に関わってくださっている全ての方に、幹事団一同深く御礼を申し上げます。

忘れられない学生交流会

上智大学 非常勤講師 グトワ・エカテリーナ

20年以上前の話になります。私はノボシビルスク国立大学の学生であった頃（1992年～1997年）に日露学生交流会に参加しておりました。ご存知の通り、90年代はロシアではまさに激動の時代でした。ソ連崩壊後、政治や経済、社会において劇的な変化があり、混沌とした状況下では様々な困難がありました。その変化には正と負の両面があり、物、サービス、人の移動の自由化がもたらされたのも事実です。ソ連時代はほとんど実現不可能だった民間レベルでの海外との交流も行われるようになってきました。学生である私にとっては、それは嬉しい変化でありました。

私の大学での専攻はロシア語ロシア文学でしたが、外国語として、有名なフロロヴァ先生から日本語を習っていました。教材が古く、教育設備もあまりなく、インターネットもまだ普及していなかった時代でした。ソ連では日本の古典文化などが研究されていましたが、現代の生活や若者の文化について等日本の情報を知る機会があまりありませんでした。

日露学生交流会との出会いがあったのはそのような時代です。幸運にも、私たちは実際に日本を訪れることができ、また、日本人の学生たちをロシアで受け入れることもできました。ゲスト側、ホスト側、どちらの体験もとても面白かったです！

お互いの国でホームステイを行い、遠足、見学、ディスカッション、パーティなど様々な企画を行いました。色々な発見や感動が多かったです。学生時代のもっとも楽しい思い出になりました！一生忘れられないと思います。

様々な貴重な体験の中で、生きた外国語に触れ合うことはかけがえのない体験でした。ディスカッションの中で使用される時事的な表現、楽しい時間の冗談にあふれている会話の表現、歌の言葉、気が付かないうちに生きた言葉が身に付いていきました。

今では10年以上、東京のいくつかの大学でロシア語を教えています。授業という限られた時間の中で、どうやって学生のロシア語能力を向上できるか、ロシアの文化やロシア人の考えかたに関しての理解を深めることができるか、常に心をこめて頭を悩ませています。教材を使って学習するだけでなく実際にロシア人の学生たちと交流することは、ロシアについてより勉強するための動機になるだけでなく、生きた言葉を学ぶ素晴らしい機会になると思います。是非、日ロ学生交流会の活動を続けて、素晴らしい思い出をいっぱい作ってください。繁栄を心から願っています。

そして私と一緒に学生交流に参加をしていた、現在は世界の様々な場所、分野で活躍中の同級生からもメッセージが届いています。

Anna Lapatkova （アメリカ、ロサンゼルス）

1994年に日露学生交流会の幹事長になりました。その時19歳、海外旅行を経験してな

く、ノボシビルスク国立大学の2年生でした。

幹事長になってくれないかと聞かれた時に幹事長って何？全然知らなかった。しかし「はい、やらせてください！」と手をあげました。

ホームステイや日常スケジュールなどは簡単と思って、幹事長をやろうとしました。若くて“責任”と言う言葉の意味がほとんどわからなかった！

その時に日露学生交流会の先輩（早稲田大学の吉田さん）に教えていただいて、怖くても無理して頑張ろうとしました。大変なことが色々あったけれど、日露交流は今までも忘れられない経験でした。胸一杯の思い出です。

そして言いたいこと、難しくて自信のないこと、知らないことがあってもやる気があれば手を挙げて気にしないでください！一歩百歩。

私は今ロサンゼルスに住んでいます。会社を起こしてアメリカとロシアだけでなく、日本とも商売をやっています。難しいことは難しいけれど、学生の頃に受けた経験を使いながら少しずつ前向きに進んでいます。

Svetlana Sabelfeld （スウェーデン、ヨーテボリ）

日ロは、ノボシビルスクと東京の若い大学生私たちの間、全く違う文化と経験を交流していた本当に素晴らしいプロジェクトでした。これは20年以上前の話ですが、その時作った友達とは今もフェイスブックで交流を続けています。1994年に東京でホームステイのおもてなしを一生忘れないです。お世話になったホームステイの家族は私を家族旅行で美しい山にスキーをしに連れて行きました！東京に滞在していた時は前に聞いたこともないディズニーランドを始めて見て、泣くほど感動しました！

今スウェーデンに住んでいて、ヨーテボリ大学のビジネススクールの大学準教授として働いています。IR（インベスター・リレーションズ）に関する私の研究の一部は日本にも関連しており、たまに日本に来ることがあります。日ロ学生交流会の1990代の良い思い出のおかげで、今でも東京にいる時、家にいるように感じます。

Marina Pilipenko （ロシア、モスクワ）

1992年にノボシビルスク国立大学に入って、フロロワ先生の教室で日本語を勉強し始めました。半年経ってから、ホームステイプログラムに参加する機会に恵まれました。ソ連が破壊されたばかりなころで、本物の日本人に会えるなんて奇跡みたい、日本語で話せるチャンスをすごい楽しみにして待っていました。シベリアの寒い冬にいらっしゃった大西広子さんという女の子は、とてもとても明るく親切な人でした。弟も、両親も広子さんのことを直ぐに大好きになりました。

半年後、8月に私も、広子さんの所に泊まりに来ました。ずっと忘れられないのは、広子さんのお母さんが、私のために、丁寧に、床の間で生けられたお花です。この花が、言葉が通じなくても、あたたかいおもてなしのメッセージでした。優しく美しい心の人だと深

く感じました。こんな素晴らしい人に出会えて本当に良かったと思います。お世話をする、おもてなしという本当の意味を勉強できました。

その後に、日本関係の道を選び、日本語の教師、通訳、ビジネス・コンサルタントをやり、札幌で国際交流員として3年間働いて、札幌市長の通訳し、小泉総理大臣に会い、日本大使館などの依頼で仕事させていただきました。ここ6年間来、モスクワでユニクロの本部で、サービス担当をしております。

大西広子さんのお母さんが教えられたおもてなしの意味を忘れずに、頑張っております。

目次

第1章 日本ロシア学生交流会について	3
当会の沿革	4
関東本部について	6
これまでの主な活動.....	6
第2章 2017年度の活動について	9
年間活動概略.....	10
年間収支報告.....	10
今後の展望	11
第3章 2017年度訪日企画報告	13
企画概要	14
収支報告	14
主な企画内容.....	16
各日程活動報告	17
ロシア人参加代表者感想	21
ホストファミリー感想	22
日本人参加者感想（抜粋）	24
訪日企画プレゼンテーション発表.....	25
第4章 2017年度訪露企画報告	27
企画概要	28
収支報告	28
主な企画内容.....	29
日本人参加者感想	29
第5章 補足	33
学生シンポジウム『MECHA ミチター』について	34
セーミチキ（旧関西本部）について.....	34
交流都市について	34

第 1 章 日本ロシア学生交流会について

当会の沿革

1989年、激動の年を迎えたソ連。諸外国からの渡航がままならない中、ソ連の同世代の学生たちと直接膝を付き合わせ語り合おうと奮い立つ日本の学生らがいた。彼らは同年6月、当会の前身となる「日ソ学生交流会」を設立した。当時はソ連に関する正確な報道も少なく、日本においては絶対的な情報量が不足していたが、得られた僅かな情報を元にして毎週のように「ソ連とは、新生ロシアとは何か」と熱い議論を交わしていたのである。

会設立後の2年間はモスクワへの訪問を重ね、現地の学生との対話を実現しようという意気込みのもとに活動していたが、ソ連・ロシア激動の時代で交流先を見つけることすら困難であった。そのような中、財団からの助成金が一時打ち切られ、やむなく自費でモスクワへの渡航が2度実施された。格安航空券など無いこの時代に、学生が自費でソ連へ渡航するのに必要な資金集めに際しては、想像を絶する苦労があった。

1994年、厳しい状況が続く中、会員は自身らで資金を出し合い、第1回訪日企画を敢行し、当会で初めてモスクワから1名の学生を招致した。更に翌年の1995年は、当会にとって大きな転機の年になった。シベリア地域最大の都市であるノヴォシビルスク市の学生との定期的な交流事業が開始される運びとなったのである。ノヴォシビルスクには日本語を教えている高等教育機関が複数あるが、当時は主にノヴォシビルスク国立大学の東洋学部との交流を継続的に実施した。ここで、その事業の端緒となった、当会の顧問を務めてくださった和田氏とフロロヴァ女史との出会いについて以下に記しておく。

和田氏は、第二次世界大戦で強力な軍事力を誇ったソ連への鮮烈な印象、戦後もロシアに関心を抱いていた。そこで、長年に渡る金融マンとしての職業人生を引退された後は精力的にロシア国内の大学を回り、日本語学習の指導。また、自ら多くの在日ロシア人留学生の身元保証人として活動されるなど、日ロ両国の架け橋になろうとご尽力なされた方でもあった。

あるとき和田氏がノヴォシビルスクを訪ねた際、当時日本との交流が皆無に近かったこの地で日本語を教えている教授がいると知った。その教授こそがフロロヴァ女史である。彼女はソ連邦成立直後の幼少時代に中国東北部へ亡命し、「満州国」に成り代わった同地の日本人学校に入学した。その後、高等女子学校まで日本語による教育を受け、フルシチョフ時代のソ連に帰国して大学で教鞭をとった。フロロヴァ女史の半生には常に戦争がついてまわった。

和田氏とフロロヴァ女史は、戦争の記憶という共通項で結ばれて意気投合し、両氏が仲立ちとなって日ロ間学生交流の芽を育もうということで意見の一致を見た。当時フロロヴァ女史の勤務していたノヴォシビルスク国立大学に本会の姉妹サークルとして「東洋クラブ」

を結成し、万全の受け入れ態勢が整ったところで第1回ノヴォシビルスク訪問事業が実行された。それまで一貫してきた「ホーム・メイド」の交流活動をモットーとして継続し、当会の活動を重ねた。

1996、97年には春先の桜の蕾がほころぶ頃に訪日企画を実施し、ロシア人・日本人ともに思い出作りには絶好の企画となった。築地の魚市場を訪れて市場関係者にインタビューを試みたり、レンタカーを借りて富士山に登ったりと、バリエーションと新鮮さに富んだ活動を行った。日本の家庭を知ってもらうことを目的としたホームステイ事業を本格的に始めたのもこの頃である。訪日企画に際してはロシア側と「財団の助成金に関する覚書」に署名・調印を行うなど、組織としての関係強化について協議が重ねられた。また、失敗に終わってしまったが、ロシア極東地域のブリヤート共和国にあるウラン・ウデ国立大学との交流開始を模索した年でもあった。

1998年からはそれまで2期に渡って同年中に行なっていた訪日・訪日企画について、主に財政的理由からそれぞれ隔年開催とすることに決定した。当時の基本的な方針としては、訪日・訪日企画を隔年開催にする代わりに1回ごとの交流事業の規模を拡大し、ロシア側との間にこれまでと同等の交流密度を維持していく、というものであった。その具体的な表れとして、当会会員の実家に出向く「地方企画」など新企画が次々と打ち出された。訪日事業においても同様の路線がとられた。

1999年には新しい試みとしてモスクワ再訪問を行い、現地の学生(プレハーノフ記念経済大学内の国際学生交流サークルであるIAESTEのメンバー)との交流が再開した。

2001年の夏よりモスクワ郊外の街リヤザンとの交流が開始された。ノヴォシビルスクとの交流も現地メンバーが大きく入れ替わり、さらに活動は充実した。

2009年、本会は前身の日ソ学生交流会時代も含め20周年を迎えた。この間当会からは長峯誠参議院議員をはじめとして広く社会で活躍する人材を多数輩出している。

2011年の春には嘗てから望んでいた関西本部を設立した。大阪大学・同志社大学の学生を主な会員としている。同年8月にはリヤザンから4名を関西に招致して10日間の訪日企画を行った。同時に訪日企画も行ったため、1997年を最後に途絶えていた訪日・訪日企画の同時開催を果たす運びとなった。

2012年は関東関西2本部体制の中で4都市間同時交流という新しい試みを始めた。関東からノヴォシビルスクへ、関西からリヤザンへ、また、ノヴォシビルスクから関西へ、リヤザンから関東へ、と2つずつの訪日・訪日企画が実施された。この試みは現在も続けられている。

2013年3月には『日ロ学生シンポジウム』を行った。外部の方々を招いての斬新かつ大規模な企画を皮切りに、北方四島学生交流企画への参加など多岐に渡って活動が実施され

た。新会員を迎え会員数は関東本部だけでも 50 名にまで膨らみ、本会は量、質ともに飛躍的に発展を遂げる年となった。

2014 年では新たな試みとして東京大学の学園祭である駒場祭での出店を行ったことで、本会の活動・ロシアのことについて一般の人に広く知ってもらいきっかけとなった。

2015、16 年には会員数が増加、これまでの主な参加大学である東京大学、東京外国語大学、上智大学に加え、慶應義塾大学や東京理科大学、法政大学など様々な大学から会員が集まるようになり、活動に活気が生まれた。

そして本年には、2016 年度に天候不順によりやむなく中止した北方領土への訪問を果たした。更には、2013 年度に開催された『日ロ学生シンポジウム』を『ミチター』と改め再開する運びとなった上、駒場祭に加えて東京大学のもう一つの文化祭である五月祭へも出店を行い、活動の幅を大きく広げる事となった。

また、本年から当会の関西支部が「セーミチキ」として名を改め別組織として独立した。これを受け、昨年度以前は関東本部の報告書に併せて関西支部の年間報告も掲載していたが、本年以降は関東本部の活動についてのみ掲載することとする。

関東本部について

関東本部は 1989 年に設立された日ソ学生交流会を前身として、現在に至るまでノヴォシビルスク・リャザンとの学生間交流を中心とした活動を行ってきた。近年は訪日・訪ロ企画以外にも、北方領土を訪問するビザなし交流への参加、学園祭への出店など、活動は多岐に渡っている。上智大学・東京大学・慶應義塾大学を中心とした関東圏の様々な大学の学生から参加を受けている。会員はロシア語が専攻・第二外国語の学生に限らず、ロシアやその周辺地域への関心、学生交流への興味などで当団体に入る者も多くなっている。また、会員の紹介等からこの会の存在を知ったロシア人留学生の参加も今年は大きく増加し、交流の機会が併せて多くなったことは喜ばしい。OB・OG の活動への参加も積極的に受け入れており、ロシアについてのみならず団体活動に関する知識、経験に富んだ OB・OG の参加は会員にとっても心強く、来年度もこの姿勢は継続することが見込まれる。

これまでの主な活動

1989 年 6 月	日ソ学生交流会結成
1990 年 8 月	第 1 回訪ソ企画：日本人 13 名をモスクワへ派遣
1992 年 8 月	第 2 回訪ソ企画：日本人 13 名をモスクワへ派遣

1993年7月	第3回訪口企画：日本人をモスクワ・極東へ派遣
1994年8月	第4回訪口企画：日本人をモスクワ・極東へ派遣
	第1回訪日企画：ロシア人1名をモスクワから招致
1995年8月	第5回訪口企画：日本人7名をイルクーツク・ノヴォシビルスクへ派遣
1996年3月	第2回訪日企画：ロシア人学生8名・教師1名をノヴォシビルスクから招致
1996年8月	第6回訪口企画：日本人10名をイルクーツク・ノヴォシビルスクへ派遣
1997年3月	第3回訪日企画：ロシア人10名をノヴォシビルスクから招致
1997年8月	第7回訪口企画：日本人8名をノヴォシビルスクへ派遣
1998年8月	第4回訪日企画：ロシア人10名をノヴォシビルスクから招致
1998年9月	第8回訪口企画：日本人16名をモスクワ・ノヴォシビルスクへ派遣
2000年8月	第5回訪日企画：ロシア人9名をノヴォシビルスクから招致
2001年8月	第9回訪口企画：日本人10名をノヴォシビルスク・リヤザンへ派遣
2002年8月	第6回訪日企画：ロシア人をノヴォシビルスクから7名、リヤザンから5名招致
2003年8月	第10回訪口企画：日本人13名をノヴォシビルスク・リヤザンへ派遣
2004年8月	第7回訪日企画：ロシア人をノヴォシビルスクから6名、リヤザンから3名招致
2005年8月	第11回訪口企画：日本人10名をノヴォシビルスク・リヤザンへ派遣
2006年8月	第8回訪日企画：ロシア人をノヴォシビルスクから5名、リヤザンから9名招致
2007年8月	第12回訪口企画：日本人7名をノヴォシビルスク・リヤザンへ派遣
2008年8月	第9回訪日企画：ロシア人をノヴォシビルスクから3名、リヤザンから10名招致
2009年8月	第13回訪口企画：日本人13名をノヴォシビルスク・リヤザンへ派遣
2010年8月	第10回訪日企画：ロシア人をノヴォシビルスクから7名、リヤザンから7名招致
2011年5月	日本ロシア学生交流会関西本部発足
2011年8月	第14回関東本部主催訪口企画：日本人14名をノヴォシビルスク・リヤザンへ派遣
2012年8月	第11回関東本部主催訪日企画：ロシア人10名をリヤザンから招致

- 2013年8月
招致
- 第15回関東本部主催訪口企画：日本人5名をノヴォシビルスクへ派遣
第12回関東本部主催訪日企画：ロシア人8名をノヴォシビルスクから
- 2014年8月
- 第16回関東本部主催訪口企画：日本人10名をリャザンへ派遣
第13回関東本部主催訪日企画：ロシア人9名をリャザンから招致
第17回関東本部主催訪口企画：日本人10名をノヴォシビルスクへ派遣
- 2015年8月
招致
- 第14回関東本部主催訪日企画：ロシア人6名をノヴォシビルスクから
- 2016年8月
- 第18回関東本部主催訪口企画：日本人8名をリャザンへ派遣
第15回関東本部主催訪日企画：ロシア人6名をリャザンから招致
第19回関東本部主催訪口企画：日本人10名をノヴォシビルスクへ派遣
- 2017年8月
招致
- 第16回関東本部主催訪日企画：ロシア人6名をノヴォシビルスクから
- 第20回関東本部主催訪露企画：日本人5名をリャザンへ派遣

第 2 章 2017 年度の活動について

年間活動概略

年月	活動
2017年4月	新歓活動
2017年5月	北方領土訪問・青年交流 五月祭出店（東京大学）
2017年8月	2017年度訪日企画開催 2017年度訪露企画開催
2017年11月	駒場祭出店（東京大学）
2017年12月	2017年度総会
2018年2月	学生シンポジウム『ミチター』開催（予定）

この他、一ヶ月に2回ほど定例会を開催し、企画に向けての話し合いや研究発表を行っている。

年間収支報告

（作成 会計 小関静花）

（収入）

項目	金額（円）
前年度引き継ぎ	514,200
助成金	400,000
五月祭利益	20,602
会費	252,000
雑費	423
合計	1,187,225

（支出1）

項目	金額(円)
新歓補助費	24,138
新歓準備費	20,606
新歓参加費	16,000
新歓合宿補助費	51,700
ホームページ更新	2,854

(支出2)

項目	金額 (円)
自己紹介冊子印刷費	17,250
定例会会場代	7,650
助成金申請	672
訪日補助費	515,388
訪露差額補助費	25,000
残高	505,967
合計	1,187,225

今後の展望

(文責 木村冬馬)

弊交流会では、八月の訪日企画・訪露企画を軸とした活動を展開してきました。昨今の日本でのロシア熱の高まり、そしてロシアでの日本熱の高まりを受け、両企画の参加者はますます増え、活況を呈しています。

しかし、これらの企画が夏に集中していることから、他の時期の活動が沈静化しがちだ、という点が指摘されてきました。それを受けて、近年では、各年度の幹事団によってさまざまな試みがなされてきました。

その一つが、駒場祭への屋台の出店です。十一月末の学園祭にロシア料理の模擬店を出すことで、夏休み明けに会員のモチベーションを引き出し、また何より、一般の方にロシア文化を体験していただき、ロシアについて知っていただく、というスキームは、毎年の出店を経て確立されつつあります。

また今年度は、東京大のもう一つの学園祭である五月祭にも喫茶店を出店しました。入会して間もない学生の会への定着を促すとともに、駒場祭より集客数の多い大学祭での出店によって、より多くの方にロシアを感じていただく、というコンセプトのもと、ロシア風紅茶やウォッカのカクテルを提供しました。

さらに来年二月には、ロシア関係分野就職促進シンポジウム『ミチター』の開催を豫定しており、日露交流分野全体の発展に向けて、会全体で活動していく途上でもあります。

今後、日露関係はますます深化していくでしょう。経済的交流、文化的交流、人的交流、さまざまな形での交流が活発になっていくと思われます。弊交流会も、約三十年に亘る歴史に恥じぬよう、この社会的趨勢にしっかりと棹さしていきたいと考えています。

日本とロシアの学生による交流、それは大海に投じる小さな一石にすぎません。しかし私たち日本ロシア学生交流会は、そういった草の根的活動こそが日露交流の重要な担い手たりえと信じています。私たちの力で、ロシアという隣国をさらに身近なものにしていこうではありませんか。

第 3 章 2017 年度訪日企画報告

本年は、報告書の作成時期が当会内での訪日企画報告よりも前倒しとなったため、例年の報告書よりもかなり情報量が少なくなっている。12月17日開催予定の総会での訪日報告を、総会以降に当会公式HPに掲載する予定なので詳しくはそちらを参照されたい。

企画概要

- 企画名…第30回日本ロシア学生交流会交流企画 第16回関東本部主催企画
- 企画開催期間…2017年8月4日～同月12日
- 主催及び企画…日本ロシア学生交流会 関東本部
- 共催…日本ロシア学生交流会 ノヴォシビルスク支部
- 助成…公益財団法人 平和中島財団
- 企画日程

日付	活動内容
04/08/2017	ウェルカムパーティー
05/08/2017	浅草散策・スカイツリー見学
06/08/2017	ファミリーデー
07/08/2017	ディスカッション（東京大学）
08/08/2017	お台場散策
09/08/2017	ディスカッション（上智大学）
10/08/2017	鎌倉散策
11/08/2017	みなとみらい・横浜散策
12/08/2017	フェアウェルパーティー

- 収支報告

（作成 小関静花）

(収入)	項目	小計（円）
	助成金	400,000
	口座	115,388
	合計(円)	515,388

(支出1)

日付	項目	内訳(単価) (円)	人 数 (人)	小計(円)	備考
8/4	ウェルカムパーティー代	2,000	9	18,000	
	ディズニーチケット代	4,400	9	39,600	
8/5	スカイツリー当日券	2,060	9	18,540	
8/7	カラオケ代	1,200	9	10,800	
8/8	日本科学未来館入館料	490	9	4,410	
	観覧車	572	9	5,148	
8/9	上野動物園 入場料	480	9	4,320	
8/10	江ノ電・鎌倉フリーパス	1,020	9	9,180	
	海の家 利用料金	1,500	9	13,500	
	高德院 拝観料	200	9	1,800	
8/11	カップヌードルミュージアム入館料	500	9	4,500	
8/12	フェアウェルパーティー代	2,500	9	22,500	
8/3~8/13	食費(一人暮らし)	2,000	7	140,000	朝 400 円 昼 800 円 夜 800 円 (10 日分)

(支出2)

日付	項目	内訳(単価) (円)	人数 (人)	小計(円)	備考
8/3~8/13	食費(実家暮らし)	1,700	2	34,000	朝 300 円 昼 700 円 夜 700 円(10 日分)
8/3~8/13	交通費			99,090	
	ホームステイ受け入れ謝礼金	10,000	9	90,000	
合計(円)				515,388	

主な企画内容

- ホームステイ
訪日したロシア人は、当会の日本人メンバーの家庭でのホームステイを通じ日本の食文化や生活様式を知り、また、日本人側もロシア人との生活様式の違いを発見することとなった。
- プレゼンテーション発表及びディスカッション
当会の日本人メンバーの代表者が、日ロ両国の共通問題や差異に焦点を当てた、硬軟問わない様々なプレゼンテーションを二日間にかけて発表した。その後、発表を受けてグループに分かれ意見交換を行った。ロシア語・日本語の実践の場となっただけでなく、両国の学生が各々の価値観や意見を共有する場となった。
- 都市散策・交流企画
鎌倉や浅草といった、日本古来の文化の息が感じられる場所に加え、お台場やみなとみらい、ディズニーランドといった現代的な観光名所にも訪れた。また、企画初日にはウェルカムパーティー、最終日にはフェアウェルパーティーを開催した。ロシア人たちは人ごみには辟易していた様子であったが、概ねどの企画も楽しんでいるように見受けられた。
- 報告書の発行
今回の企画によって当会のメンバーが得たものをまとめることによって当会の活動意義を伝えるため、報告書を発行する。

各日程活動報告

8/4

11:00～ウェルカムバーベキュー 葛西臨海公園

17:00～ディズニーランド

バーベキューは日本人とロシア人が程よく交流できて、それ以降の訪日企画が円滑に進められるほどに仲良くなれた。その後は予算に余裕があったことと夏休み期間中は17:00～入園料が安くなることもあり、話し合いでディズニーランドに行く事になった。訪日で楽しかったことを聞くとどのロシア人からもバーベキューベキューとディズニーランドがよくあがっていたので、場合によっては今後も取り入れてもいいと思った。

(文責 石井廉史郎)



8月5日

最初にスカイツリーへ向かいました。ショッピングを楽しみにロシアの方達はたくさん日本の商品を買って非常に喜んでくれました。また展示物などにも大変興味を示していました。そして、スカイツリーの展望台に向かいそこで記念撮影をし、高さに恐怖を感じながらも楽しんだ様子でした。特に床がガラス張りのところでは下が丸見えですごく怖いけどワクワクした様子でした。昼食にはソラマチでお寿司を食べました。ロシアのお寿司とは違う握り寿司を楽しみにしてくれていたようで大変興味を示してくれて、美味しいと食

べてくれました。特にイクラや、筋子が好きな様でした。その後、お土産コーナーで日本のキャラクターのグッズなどにも大変興味を示してくれて、各々好きなグッズに夢中になり買い物をしていました。その後浅草に行きました。浅草寺の日本らしい雰囲気を堪能しながら楽しみました。

(文責 梶原緋奈乃)

8/7

12:30～東大でディスカッション

15:00～渋谷でカラオケ

ディスカッションでは日本人がテーマに沿ってスピーチ・ディスカッションした他にロシア人が日ロ間の文化についてそれぞれプレゼンを発表してくれて、とても面白かった。その後のカラオケでは、初めはみんな楽しんでくれていたが、徐々に飽きたロシア人も2、3人いるようだった。

(文責 石井廉史郎)

8/9

10:00～上智大学でディスカッション

14:00～上野動物園

18:00～アメ横

動物園ではパンダを始めとしていろいろな動物が見られて、かなり喜んでもらえた。最後に3人のロシア人とはぐれてしまい、ロシア語で館内放送をさせてもらうことになったが、それも含めて楽しそうにしていたので良かったと思う。

(文責 石井廉史郎)



8/10

9:00 新宿集合

11:10 鎌倉到着

11:30~12:40 鎌倉散策

13:00~14:00 長谷寺大仏見物

14:30~17:00 由比ヶ浜ビーチ

19:00 新宿解散

天候が不安定な1日で、お昼過ぎまではとても暑かったですが海に入る頃には曇ってきて、海に入るには少し涼しいかなという感じで、帰りの電車に乗った直後くらいには大雨が降っていました。鎌倉散策では日本らしい建物も、美味しい食べ物も、日本らしいお土産屋さんも多く楽しんでもらえたと思います。しかし、日本人だけのグループになってしまった時間があった点は個人的に来年は改善したいなと思っています。大仏はロシア人は興味津々でいろんな場所で写真を撮っていました。由比ヶ浜の海は透明度は低くかなり濁っていて、自分はあまり入りたくなかったのですが、水着を持ってきたのでせっかくだから入りました。クラゲに刺された人もいましたので、あらかじめ薬を持っていけばよかったかなと思います。全体的にはほぼ予定通りに進み、良い1日でした。

(文責 鈴木大己)



8/11

13:00～カップヌードルミュージアム

15:00～横浜中華街

18:00～赤レンガ倉庫

祝日だったこともあり想像以上に混んでいた。ロシア人はやはり人混みを嫌がっていたみたいだし、はぐれることも怖かったので、当初の予定を変更して横浜中華街まで避難。そこで遅めの昼食を取り、赤レンガ倉庫で夜景を見て、解散した。

(文責 石井廉史郎)



8/12

18:00～渋谷でフェアウェルパーティー

渋谷の apella cafe という場所を 4 時間貸切利用した。2000 円飲み放題で持ち込み可。全体的に非常に盛り上がり楽しかったが、一部お酒を飲まないロシア人はついて来られていなかった様子で少し可哀想に感じた。冬馬くんがフォローをいれてくれたので、大丈夫そうだったと思う。

(文責 石井廉史郎)

Здравствуйте, меня зовут Елена и я лидер группы русских, которые в августе этого года поехали в Токио по программе культурного обмена Ничиро. В первую очередь хотелось бы отметить Миори-сан, которая очень сильно помогала нам с оформлением виз и отвечала на все интересующие вопросы. Без участия таких замечательных людей не было бы этой программы.

Наша поездка в Токио была интересной, насыщенной и полной ярких эмоций. Мы были очень рады увидеться с японцами, которые в прошлом году приезжали к нам. Со многими мы не надеялись увидеться, поэтому встреча с ними нас удивила и обрадовала. Многие из принимающих японцев были нам незнакомы, но мы все очень быстро подружились и нашли общий язык.

За время пребывания в Токио мы успели даже больше, чем было запланировано по программе. Нашим японским друзьям приходилось нелегко, потому что русских было много и у каждого были какие-то свои интересы, но японцам удалось построить программу так, что абсолютно все остались довольны. К вечеру мы все очень уставали, но все равно у всех оставались силы для новых подвигов.

Каждый день был очень ярким, но особенно запомнились такие события, как welcome party, Диснейленд, зоопарк, Акихабара, Камакура, Одайба и прощальная вечеринка. Хотя мы и доставляли много хлопот, наши японские друзья всегда справлялись с трудностями и не давали испортиться настроению.

Кроме японцев, которые принимали нас у себя, к нашей группе часто присоединялись другие студенты, изучающие русский язык. Нам было очень интересно пообщаться со всеми, отвечать на их вопросы и узнать, что так много людей хотят побывать в России. С нетерпением ждем их приезда в последующие годы! Мы обязательно хотим принимать участие во встречах и показывать гостям свой родной город.

Спасибо большое всем, кто принимал участие в Ничиро 2017! Эта поездка навсегда останется в наших сердцах. Приезжайте в гости, мы будем рады вновь встретиться со всеми и провести время нашей большой и дружной компанией.

ホストファミリー感想

東京大学 3年 木村 冬馬

今年の訪日企画では、ノヴォシビルスクから Л е н а、К с ю ш а、そして С т е п а を受け入れた。昨年の訪露企画に参加した際に会った三人ではあったが、ほとんど話したことがなく、今回が実質的な初対面だった。最初の数日間は、東京への長時間移動の後ということもあり、三人は終始疲れ気味だった。時差の影響で、起床が苦痛だったのも原因の一つのようだった。口数が少なく、食欲もあまりないようで、食事の席は当初、賑やかとは言えない雰囲気だった。しかし、日を重ねていくうちに、状況は一気に好転した。アニメや漫画など、日本のポップカルチャーが好き、という三人の共通点が見出せたからだ。自由行動日の行き先の希望も全会一致で秋葉原となり、グッズショップを回ったり、メイドカフェに行ったりと、大いに楽しんでいて、また、各日程の企画自体は総じて好評だった。特に、東京ディズニーランドやスカイツリーが最も印象に残ったようだった。日本人側より若干年齢層が高い三人ではあったが、未成年の日本人学生たちとも忌憚なく交流できていた。今回の訪日企画の反省点としては、日本人側の状況が直前まで錯綜し、受け入れ態勢が万全とは言えなかったことが挙げられる。来年度以降は、受け入れ家庭とロシア人の割り振りを決める際に、受け入れ側に補欠を設けるなどして、家庭の事情その他による不測の事態に備えるのが望ましい。また、受け入れ側が旅程を練るあまり、連日の活動についていけないロシア人も見受けられた。今後は、自由行動日を増やすなどして、もう少しゆったりした計画を立てるのも一案だと思われる。毎朝晩の調理や時間管理など、独り暮らしの身には重荷な部分も多少あったが、企画全体としては申し分なく楽しく有意義なものになった。機会を見て、来年度以降の訪日企画にも参加していきたい。

上智大学 2年 高柳 りさ

この企画の様にロシア人と触れ合える機会は貴重であり、自身にとっても非常に良い経験となった。24時間を共に過ごすことで、彼女たちのロシアでの生活を垣間見れた様に思う。もちろん言語の不自由さを感じる場面は多々あった。自分がロシア語の表現に乏しいことを改めて知り、また日本語でロシア人に伝える際にはどのように話すのが良いかを学んだ。企画の内容では神社やお寺などの日本文化、歴史の礎となるものからカラオケやアニメなどポップカルチャーに触れる部分もあり様々な角度から日本の魅力を伝えられたのではないと思う。一方ロシア人のディスカッションでは彼、彼女らが日本の何に興味を持っているのか、ロシア人特有の文化などにも触れることができ大変ためになった。

しかし改善点もある。やはり日本人だけの時とは違い、ロシア人も一緒に行動するとなると移動や集合に時間がかかる。予定通りに予定が進まないことがほとんどだった。そのため来年1日に行く場所を少なくし、より一箇所に多くの時間を費やすよう努めたい。日露学生交流会の主要なイベントの一つである本企画は参加したロシア人、日本人双方に良い刺激を与える非常に意義のあるものだったと感じた。また機会があれば是非この企画に参加したい。

上智大学1年 小林 紗弓

К а т я が私の家にホームステイしました。毎日楽しい企画がたくさんありました。ロシアから来た方々は、少し疲れている様子もあったけど、毎日企画を楽しんでいたのが全体的に最高の訪日だったと思いました。訪日を通して、ロシア人と直接触れ合ったり生活したりして話したりするだけでは気づかないことを発見できました。まだまだロシア語で話したり、理解したりすることができないことを実感して、これからの勉強の励みになったし、来年はノヴォシビルスクに訪問することを目標にして、努力して行きたいと思いました。13日間一緒に過ごしたことは、私にとって初めての体験であったし、忘れられない体験になりました。

早稲田大学1年 松浦 瑠希

10日間のホームステイ受け入れは、私にとって、同年代のロシアの学生の生活や考え方に触れることができる、貴重な体験だった。家では、いくつか会話を交わし、ロシアでの普段の生活や、スラングやアルコールについてなど、辞書やインターネットでは手に入りにくい情報をたくさん知ることができた。特に、音楽については、今までに全く知らなかった、ロシアのインディーバンドについて教えてもらった。ロシアに対して、ロックというイメージがなかったため、とても興味深いと感じている。普段の活動では驚いたことが1つある。それは、みな時間通りに集合場所に来ないことだ。決められた時間より5分、10分遅れることは珍しくなかった。しかしそれは、時間に関する日本人とロシア人の考え方の違いに触れる良い機会だったと思う。また、日本人が楽しいと思っていることと、ロシア人がそう思っていることが違うと感じた出来事がいくつかあった。楽しさに対する考え方も違うため、企画の難しさも感じた。しかし、柔軟な動きも多く、日本が楽しい思い出になったようなので良かった。隣国でありながら遠い国と言われるロシアであるが、そこに住む人々について容易に色々と知ることができた。また、来年にある訪日企画にも積極的に参加し、今年味わった興味深い体験をまたしたい。

日本人参加者感想（抜粋）

毎日たくさんの企画があり、とても実りの多い企画だったと思います。ただ、少し予定を詰めすぎていて、思い通り進まなかった日もありました。ロシア人も疲れて参加できなかったり遅刻したりしていたので、もう少し内容を減らしてもいいのではないかと思いました。ファミリーデーはロシア人の興味に合わせて色々なところに連れて行って、素晴らしいと思いました。

（文責 佐藤玲菜）

2人のロシア人を受け入れ、10日間生活しました。お互いの文化や、政治的な問題についてじっくりと話し合う良い機会となりました。彼らは大変日本での生活が気に入ったようで、日本の魅力が少しでも伝えられて満足しています。

（文責 伊賀慎太郎）

今年の夏に入会し、初めて訪日企画に参加した。この企画でロシア人とバーベキューや観光、ディスカッションなどして共に過ごしたことで、互いの文化に関する理解を深めることができた。私は学校でロシア語を勉強した経験がなく、個人的な興味で学び始めたばかりの初心者中の初心者だが、ロシア人と流暢に会話をする会員の姿に触発され、自分も考えたことをロシア語で表現することができる語学力を身に付けたいと強く思った。ロシア人と友人になったことで、それまで本やインターネットの中でその存在を感じていたにすぎないロシアという国がぐんと身近なものに感じられた。今回の縁を大切に、今後も会での活動を通して学習を続けていきたい

（文責 福田理穂）

私は family day を除き、全日参加しました。昨年度の訪露企画に参加し、受け入れ先となってくれたロシア人の方々が今回日本に来て、一年ぶりの再会をしました。

今回の訪日企画で私は昨年度に引き続き、プレゼンテーションを担当させていただきました。私が話したテーマは自国の政治に求めることでした。私の専攻は国際政治学で主にロシアを中心に学んでいます。たまたま本年度の春学期に大学の授業において、日本の政治について詳しく知る機会があったので、日本の政治とロシアの政治を比べ、根底にある共通問題に焦点を当てて述べ、ロシア人の方々にも共感されやすい、理解しやすいような内容にしました。ロシア語原稿を作るときはやはり政治的な内容で語彙も難しく、なかなか苦労しましたが基本的にはよくできており、意味が分からないところはないと相手側からお褒め

の言葉を頂き、自身の成長と引き続き勉強しようと思う向上心を感じました。

本年度の活動は遠出することが多く、また当初の計画にはない活動を組み込んだりしていたのでお財布的には非常に圧迫されましたが、ロシア人と共にさまざまな場所に訪れることができ、ロシア人とともに私自身も観光することができて楽しかったです。

私は比較的エカテリーナさんと企画中共にしており、帰国日の前日には彼女の強い希望により BL カフェに行き、彼女がいなければ決して触れることがなかったであろうサブカルチャーの一つを体験しました。別れる際に感謝のメッセージをいただき、もう一人のホストなど言ってくれるほど、私たちはロシア人、日本人双方ともに非常に楽しい時間を過ごせました。

本年度も日露学生交流会のもてこのような素晴らしい活動に関わることができて非常に嬉しいです。このような活動をとおして日ロ双方ともに相互理解と友好が深まることと、またこのような活動がこれからも先長く続くことを願います。ありがとうございました。

(文責 南谷成貴)

訪日企画プレゼンテーション発表

東京大学 3 年 木村 冬馬

休暇の過ごし方

Сегодня я расскажу про жизнь на каникулах.

Обычно каникулы у нас около двух месяцев летом и полтора месяца зимой. Для японцев этого вполне достаточно, потому что большинство любят работать. (ха-ха)

На французском языке есть слово для каникул — *vacance*. Это слово значит, «ничего не делать, только отдыхать». Но японский народ не может проводить время, как они. У них нет дачи для отдыха. Поэтому им надо решить, что делать на каникулах.

Например, студенты продолжают работать в кафе или репетитором. Младшим студентам нужны люди, которые учат их математике или английскому.

Но нам, конечно, надо развлекаться летом и зимой. Мы обычно ходим в караоке, в морской музей и в кафе. И в Японии все любят путешествовать. Японию не окружает никакой страны. Поэтому если мы хотим поехать в другую страну, нам надо сесть на самолет. Это очень дорого. Многие люди путешествуют внутри Японии.

Зимой специально некоторые ездят кататься на лыжах или сноуборде. Нам нельзя делать это в Токио, поэтому ездят в северный район.

А летом мы ездим на море. Японию окружают моря — у нас много пляжей! Несмотря на то, что у нас существуют такие моря, некоторые странные делают по-другому. Они приглашают русских и развлекаются вместе. Знаете ли, кто они?

第 4 章 2017 年度訪露企画報告

本年は、報告書の作成時期が当会内での訪露企画報告よりも前倒しとなったため、例年の報告書よりもかなり情報量が少なくなっている。12月17日開催予定の総会での訪露報告を、総会以降に当会公式HPに掲載する予定なので詳しくはそちらを参照されたい。

企画概要

- 企画名…第30回日本ロシア学生交流会企画 第20回関東本部主催訪露企画
- 企画実施期間…2017年8月15日～同月26日
- 主催及び企画…日本ロシア学生交流会 関東本部
- 共催…日本ロシア学生交流会 リヤザン本部
- 助成…公益財団法人 平和中島財団

収支報告

(作成 小関静花)

(支出)	項目	内訳(単価)	(円)	人数 (人)	小計(円)
	国際航空券		118,510		9
ビザ発行手数料		7,000		2	14,000
差額補助		25,000		1	25,000
合計(円)					1,105,590

(収入)	項目	内訳(単価)	(円)	人数(人)	小計(円)
	自己負担金		118,510		9
自己負担金		7,000		2	14,000
口座		25,000		1	25,000
合計(円)					1,105,590

主な活動内容

- ホームステイ
当会の日本人メンバーがロシア人家庭にホームステイした。観光でロシアを訪れたことはあっても、家庭生活を体験するのは全員初めてであり、非常に良い経験となった。今回、ホームステイを引き受けてくれたロシア人メンバーとそのご家族には厚く感謝を申し上げたい。
- 都市散策・交流企画
リヤザン観光を通し、都市部のモスクワやペテルブルクとはまた違ったロシアの一面を感じる事が出来た。また、ロシア人メンバーが企画してくれたパーティーなどを通じ、交流を深めた。
- 報告書の発行
今回の訪露企画を通して日ロ両国の会員が得たものをまとめ、当会の活動意義を伝えるために報告書を発行する。

日本人参加者感想

(慶應義塾大学1年 太田 就士)

「これがロシアか！！」

ロシアの空港に着いてから帰国日まで、僕は終始ロシアの全てに驚かされていました。それほど、多くの刺激を受けました。

言語はもちろん、ロシアの歴史、文化、考え方の違いなど、大変多くのことを学ばせていただきました。ホストが日本語と英語も堪能で丁寧に説明してくれて理解を深めることができたのも良かったです。ロシアのことわざや、ロシア人に根付いた考え方、入ってくる情報全てが新鮮でとにかく楽しかったです。

特に驚いたことは、意外にも日本好きのロシア人が大変多かったということです。正直、今まで僕の中ではロシアは他人に興味がないような暗いイメージを強く持っていました。冷静に考えたらそんな国はないと今なら思えますが、当時の僕にとっては衝撃でした。僕のホストは特に日本好きで茶道、合気道、書道を嗜んでおられる方でした。さらに、家には南部鉄器や湯のみ、美空ひばりのCDなども置いてあり、日本人以上の日本人っぽさに圧倒されました。「百聞は一見に如かず」、まさにその通りだなと思いました。

ただ、ロシアへ行って学んだことはロシアという国のことだけではありませんでした。何を学んだかと言いますと、それは僕の浅薄さでした。日本の文化やそれに関連した質問に、相手の満足のいく回答が全くとっていいほどできなかったのです。そういったことが多々あり、僕は自分の日本人としての愚かさが露呈してしまい大変情けない思いをし

した。

大学受験の時からロシアと日本をもっと近づけたいと考えていた僕にとって、今回の訪露企画は人生を変えるほどの旅でした。

多くの学びと刺激を得ることができたからこそ、自分は日本のことももっと知らなければいけないという思考に至ることができ、自分を含め日本人は今以上に海外に目を向けなければならないとも思えました。今回の訪露の全てが僕のやっていることに直結していて、本当に訪露企画に参加することができて良かったと思いました。

このような機会を設けてくださった方々には感謝しても仕切れません。

(上智大学1年 梶原 緋奈乃)

10日間ロシアの雰囲気を感じ、ロシアの人と仲良くなり自分のロシアに対する興味がますます増えていき楽しかったです。

(上智大学 1年中矢 優衣)

私はロシアに行ったことがなかったので、ロシア大使館でビザをとることに始まり、ロシアの空港に到着し看板にキリル文字しかないこと、少し滞在したモスクワなどの中心部と異なり東洋人がマイノリティである環境だったことなど、全てが新鮮に感じました。

10日間のホームステイだったので、個人的にロシアに行くだけでは体験できないようなことがたくさん体験できましたし、なによりもロシア人との距離がぐっと縮まったことがなによりも嬉しかったです。ホストシスターとは今でも SNS でお互いの学校生活や近況について話します。ロシアを身近に感じることができ、とても貴重な経験になりました。

(東京外国語大学1年 兵藤大介)

リャザン国立大学に通う Viktoria の家にホームステイしました。大学に入学してロシア語を勉強し始めたばかりだった私は、行く前は初めてのロシアではうまく生活していけるのだろうかと思っていました。また言語面だけでなく、治安の面でも多少の心配がありました。しかし実際にリャザンの方々と会ってみて、彼らはみんな優しい人であり、またロシアは安心して生活できる国なのだと分かりました。現地の方はみんな英語だけでなく日本語も流暢に話せることが多かったため、私がロシア語を話すことができなくても意思疎通を図ることが可能でした。

ホームステイ先ではホストファミリーが気を使ってロシアの伝統料理を振舞ってくれることが多かったです。ロシア人の実際の生活を体験できたことは私にとってかけがえのない経験となりました。訪ロでは基本的にリャザンを中心にまわったのですが、多くの博物

館を見学するなどリャザンの良さを理解することができました。モスクワにも一日のみ訪れ、有名な観光スポットを楽しむことができました。ロシア人はみんな親切で仲良くすることができました。私にとって今回の訪口は、またロシアに行きたいと感じさせてくれる貴重な時間でした。

第 5 章 補足

学生シンポジウム「MECHA ミチター」について

(文責 宇野真佑子)

日本ロシア学生交流会は、次世代の日ロ関係を考える学生シンポジウムを企画している。隣国であるにもかかわらず、これまでの日本とロシアの関係は他の日本の隣国との関係と比較すると必ずしも緊密であるとはいえなかった。だが、昨今では安倍首相とプーチン大統領の間で頻繁に会談が行われるなど、二国関係の重要性は双方にとって大きくなってきている。さらに、経済面でも8項目の「協力プラン」を軸にした連携が進んでいるほか、民間レベルでも交流の輪が広がっている。そういった現状において、次世代を担う学生が日ロ関係について改めて考えることは有意義であるといえよう。

今回のシンポジウムでは、各方面で対ロ交流に活躍している若手の方々を講師にお迎えしてパネルディスカッションを行い、参加者へ多面的に日ロ関係を考える視座を提供することを目標とする。時期は12月上旬を予定しており、現在登壇者としてロシア語教師の福田和代さん、ロシアのポップカルチャーに通曉し、『美しすぎるロシア人コスプレイヤー:モスクワアニメ文化事情』を出版された西田裕希さんをお招きすることが決まっている。今後さらに調整を重ね、運営者・参加者双方が新しい知見を得られるシンポジウムを目指したい。

セーミチキ (旧日本ロシア学生交流会 関西本部) について

関西本部は2011年に設立を果たした。以降、関東本部と連携しながら様々な交流企画を実施してきたが、2017年春に別組織「セーミチキ」として独立する運びとなった。

学生シンポジウム「MECHA ミチター」の開催には、セーミチキの協力を予定している。この企画の開催にとどまらず、今後も日ロの学生交流の進展という共通の目標のもとに協力していく姿勢が望まれる。

交流都市の紹介

● ノヴォシビルスク

今回の訪日企画では、ノヴォシビルスク支部の生徒を日本に招致した。

ノヴォシビルスクはノヴォシビルスク州の州都で、シベリアの中心都市である。モスクワから東に3191km離れた西シベリア平原に位置している。平均気温は年間を通じて+0.2°Cであり、7月で+19°C、2月で-19°Cとなっている。人口はロシア国内第3位の約158万人であり、近年も人口は増加を続けている。この街を中心に鉄道および道路が数方向に延びており、交通上の結節点となっている。

ノヴォシビルスクの起源は1893年にシベリア横断鉄道建設の過程で生まれたノーヴァ

ヤデレヴニャという街である。その後何度かの名称変更を経て、最終的には1925年に新しいシベリアの都市という意味のノヴォシビルスクに名称変更された。

ノヴォシビルスクの急成長を可能にしたこの都市の特色として、シベリア横断鉄道とオビ川の水路が交差する地理的優位性が挙げられる。街の創設から70年未満で人口が100万人を超えたのは世界でも最速で、ギネス記録にも認定されている。ソ連時代に政府がシベリア・極東における研究開発などの拠点として位置づけたことに加え、第2次世界大戦中には多数の工場や住民が疎開してきたことから、その発展は加速された。

ノヴォシビルスクはロシア東部のビジネス、商業・金融、工業、学術、文化の中心都市であり、シベリア連邦管区の行政・管理機能を有している。ロシアの都市でありながら資源採掘に依存せずに発展しており、工業的には航空機や原子力工業をはじめとする加工・知識集約型部門が中心である。1990年代後半からは商業も発展しており、2007年には巨大商業センターも開業した。

ノヴォシビルスク大学など多数の高等教育機関や研究所が集積している。街の中心から南28kmの場所にはアカデミーチェスキーゴロドク(アカデミー小都市)も存在する。

1990年に北海道札幌市と姉妹都市連携を結んでいる。

《参考文献》

竹内啓一ほか編 『世界地名大辞典5 ヨーロッパ・ロシアII』 朝倉書店

Official website of the city of Novosibirsk 『General Information』

<http://english.novo-sibirsk.ru/>

● リヤザン

今回の訪露企画で当会員が訪問した。

リヤザンはリヤザン州の州都である。面積は約224km²で、モスクワの南東150～200km、オカ川とトウルベジ川が合流する地点に位置している。平均気温は夏で19°C、冬で-11°Cとなっている。人口は約53万人であるが、近年は高齢化が進んでいることから人口は減少傾向にある。鉄道や幹線道の交差点、空港、河港が存在することから交通の要衝となっている。

リヤザンの起源は年代記の1031年に記載されているリヤザン公国のペレヤスラヴリリヤザンスキーという街である。商業・軍事の中心都市として発展し、13世紀末には州都となった。1521年にモスクワ公国に併合されてからは18世紀までモスクワ南東の防衛拠点となったのち、1778年にリヤザンと改名された。

19世紀中頃までリヤザンは行政、商業が中心であり工業部門の発展は僅かであった。しかし、19世紀末に鉄道が敷設されて交通の中心地となったことで工業部門も発展し、多く

の工場が建設された。ソ連時代の5カ年計画によっても発展は進められ、現在でも機械、石油加工などが盛んな工業都市となっている。

リャザンは行政、文化、交通の中心であり、ラジオ技術、農業、教育、医科のような大学や研究所、劇場、博物館がある。旧市街には1059年建造のクレムリンのある地区に修道院や教会など数々の建造物が保存されている。

街は1780～82年の総合計画で格子状に整備され、その後1968年の総合計画で住宅群や行政・社会施設が建設された。

《参考文献》

竹内啓一ほか編 (2016) 『世界地名大辞典6 ヨーロッパ・ロシアⅢ』 朝倉書店

第 30 期日本ロシア学生交流会 関東本部報告書

2017 年 12 月発行

編集 日本ロシア学生交流会 関東本部 広報部

幹事長 木村冬馬

発行 日本ロシア学生交流会 関東本部

Email: staff@nichiro.info

<http://www.nichiro.info>

主催：第 30 期日本ロシア学生交流会 関東本部

共催：第 30 期日本ロシア学生交流会 ノヴォシビルスク支部・リャザン支部

助成：公益財団法人 平和中島財団